

1 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 30 年 1 月 4 日 (木)
- 2 開 催 場 所 新館 9 階 191 会議室
- 3 出席した委員 田淵教育長、吉田委員、森委員、坂元委員、廣岡委員
- 4 出席した職員 高井教育総務部長、大西教育指導部長、
井部教育指導部調整担当部長、
平田教育総務部次長、
小西教育総務部中学校給食準備担当参事、
野村教育指導部スポーツ振興担当参事、
石川教育指導部学校教育担当参事、
吉田教育総務課長、竹中学務課長、
山本学校教育課長、長瀬青少年育成課長、
中田教育研究所長、
山野教育総務課副課長
- 5 傍 聴 者 5 人
- 6 議 事 の 要 旨
- 開 会 午後 2 時 30 分
- 会議録署名委員指名のこと
坂元委員に決定
- 12 月臨時教育委員会及び定例教育委員会の会議録報告承認のこと
(事務局から会議録朗読報告)
承 認
- 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(報告事項)

1 本市中学校における重大事態について
(教育指導部学校教育担当参事から説明)

教 育 長 : 12月2日に第三者委員会からの答申があったことを受け、文部科学省のガイドラインに基づく様々な取組を進めているところである。今月は、教職員向けの臨時研修会の開催や、総務教育常任委員会での報告などを予定しているが、次年度に向けては、再発防止に向けた「改善基本5か年計画」の策定に取り組んでいくとともに、各学校においても「改善プログラム」の作成を進めることとしている。また、市長部局においては、教育委員会の対応をチェックするための第三者機関の設置が検討されている。

委 員 : 答申の内容を真摯に受け止め、対応を進める中で、これからの本市の大きな教育基盤を作っていきたいと思っている。そのためには、教育委員会と学校現場が一丸となり、新たなスタートであるという認識を持って取り組んでいく必要があると感じている。

委 員 : 今月に教職員を対象とした臨時研修会を行うということであるが、これまでもいじめ問題や自殺予防に関する研修を実施してきた経緯がある中で、今回の研修会には第三者委員会の答申をどのように反映させる予定なのか。

事 務 局 : いじめの認知に対する考え方は刻々と変遷しているため、現在のいじめの定義を教職員全体で改めて共有したいと考えている。また、答申の中で指摘があったアセスの取扱いについても、効果的な活用方法を具体的に示していきたいと考えている。

委 員 : 「改善基本5か年計画」や学校ごとの「改善プログラム」は、これまでの方針と比べて大きな変化があるものと考えておけばよいのか。

事 務 局 : 原点となる命の尊さについて、改めての振り返りを促すとともに、「改善基本5か年計画」や「改善プログラム」の活用を通じ、全ての子ども一人一人を大切にすることを、いのちを大切に、相手の心の痛みが分かる子どもたちが育つ学校づくりを目指していきたいと考えている。

委 員 : 答申ではアセスにより示されたシグナルに気付けなかったことが問題視されていたが、その背景として教員の多忙化が進行していることが関連している可能性もある。いずれにしてもアセスの活用実態を改めて把握する必要があるものと考えます。

事務局： アセスについては、教員個人として処理するのではなく、学校が組織として活用する仕組みづくりが必要であったと痛感している。アセスの活用に関する学校への指導については、「もっと効果的な方法があったのでは」と事務局として反省しているところである。今月に実施予定の臨時研修会においても、重点的に学校現場に訴えていきたい。

委員： アセスのシステム自体は素晴らしいものなので、効果的な活用方法を浸透させていくことは重要なことだと思うが、活用状況をチェックする体制を構築するなど、その後の関わり方を見直す必要があるように思う。

事務局： 従前は、アセスによって要支援児童生徒と位置づけられた子どもたちの情報を学校内のみで共有していたが、この度の事案を受け、そのような情報があれば事務局まで報告してもらうよう取扱いを見直したところである。

教育長： いじめ問題については、いじめ相談シートを導入し、指導主事も派遣しながらユニット単位で対応してきた経緯がある。さらに、より客観的な資料とすべくアセスを取り入れたが、その活用方法に問題があったことについてご指摘をいただいているところである。一方、従前から各学校においては、様々な取組を通じて子どもたちの実態を把握し、一人一人の気持ちに寄り添った指導ができるよう、個別の取組を進めてきており、学校や教員の対応により救われた子どもたちがいたことも事実である。ただ、この度の事案が発生したことを踏まえ、今までの取組や制度、システムを含め、一つ一つを足元から見直す必要もあることから、「改善基本5か年計画」や「改善プログラム」の作成が求められているところである。学校現場の実態にも配慮しながら、しっかりと作成に取り組んでいきたい。

委員： 学校現場の業務が増え続ける中で、教員が子どもたちと向き合う時間が減少していることを懸念している。いじめ相談シートやアセスはあくまでもツールであり、それを活用する教員が、子どもたち一人一人の状況に応じて手を差し伸べることができるような環境の構築を検討する必要がある。

委員： 教員は、時に「経験」と「勘」を頼りに子どもたちと接することがある。多くの場合はその方法で問題が解決するが、いじめについては「経験」と「勘」だけでは対応が不十分になるという認識を教員に持ってほしいと考えている。今後は、組織として複数の目で子どもたちを見ることを心がけてほしい。また、1月9日から新学期が始まるが、事務局と学校現場が協力し、子どもたちの様子に注視してほしい。

委員：近年、教員に求められているものは増え続けているが、子どもたち一人一人の顔を見て対応するためには、やはり教員の「ゆとり」が大切だと考える。優先順位を付けるのにも苦慮されていると思うが、子どもたちの思いを汲み取る上で必須となるコミュニケーションは重視してもらいたいと思う。また、アセスの件については、「もう一歩」が足りなかったということであり、効果的な活用につなげるためには、チェック体制の強化が必要であると考えます。さらに言えば、教員によって取扱いに差が出ないように、同じレベルでの共通理解を深め、誰でも対応できるような環境になることが望ましいと考える。

教育長：これまでの議論を踏まえ、今後、一步一步着実に必要な取組を進めていきたいと考えている。

(専決報告)

- 1 加古川市就学援助規則の一部を改正する規則の制定について
(教育総務部次長から説明)
承認

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

2月1日(木)午後2時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

(1) 「加古川市立青少年女性センターの今後のあり方についての提言書」について

平成29年12月14日(木)に、社会教育委員会議からの提言書をいただいた。「社会教育関係団体の活動を、より一層推進する仕組みづくりの構築に努めること」、「新しい時代に対応した環境整備に努めるとともに、多様な役割を担う生涯学習施設としての意義を再認識し、更なる充実を図ること」、「青少年の社会教育に係る指導者育成のための拠点としての役割を果たすこと」の3点について提言があった。提言内容に基づき、今後、必要と考えられる対応を進めていきたい。

○ 教育委員諸報告

[吉田委員から]

(1) 市歌や校歌について

職員の始業式において市歌を3番まで歌唱したと聞いた。また、学校では3学期になれば学校行事等で校歌を歌う機会が増えてくる。市歌や校歌には、地域を代表する地名や歴史、風土などが盛り込まれているため、その重要性を意識した上で、特に卒業学年の生徒・児童に対しては、校歌の重みを感じてもらえるよう改めて指導をお願いしたい。

委員：各学校では、市歌に出てくる言葉や地名の説明が載ったワークシート的なものを作成しているのか。そのようなものがあれば市歌がより浸透するのではないか。

事務局：現時点では作成できていない。

委員：時間があれば、一度私の方で作成を検討してみたい。

委員：校歌に出てくる地名や名所のうち、校区内に存在しているものについては、学校活動の中で散策するなどし、実際に触れ合ってみることで、より身近に感じられるものと思われる。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 加古川市学校給食展の開催について

加古川市の学校給食の取組を広く市民に紹介し、理解を深めてもらうことを目的に学校給食展を開催する。

日時：平成30年1月27日（土）午前10時から午後3時30分まで

場所：陵南公民館

テーマ：学校給食展 ～心とからだを育てる学校給食～ 30年後の君は元気？

内容：釜混ぜ体験、パネル展示、試食コーナー、児童作品展示など

委員：昨年度にも言ったことであるが、給食展の内容に中学校給食に関する情報発信が盛り込まれていないように見受けられる。中学校給食の実施に向けての進捗状況や、各校の予定時期などについて、来場者や保護者に対して紹介すべきではないか。

事務局：開催主体が学校給食会という組織であり、調整が必要であるが、当日まではまだ時間があるため、検討したい。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 第5回社会教育委員会議の開催報告について

平成29年12月14日(木)に、第5回「社会教育委員会議」を開催した。

(2) 加古川市小中学生理科作品展、書写展、美術展の開催について

加古川市小中学生理科作品展、書写展、美術展の開催について報告する。

委員：昨年度、チラシの末尾にある主催・共催の表記に整合性や統一性が見られない旨を指摘したが、今回のチラシでは全て改善されている。
お礼申し上げたい。

(3) 平成29年度 加古川市ふれあい作品展について

「平成29年度 加古川市ふれあい作品展」が平成30年1月23日(火)から実施される。

(4) 加古川市心身障害児(者)連絡協議会冬季野外学習について

特別支援学級の児童生徒が平成30年1月25日(木)に神鍋山スキー場に行く。

委員：兵庫県内に今年度新たにスキー場ができたが、そのような話題の場所で開催できれば、子どもたちも喜ぶのではないかと思う。

以上、4件について報告

○ 閉会 午後3時30分